

薬剤師の協力で心臓病予防が向上

高血圧や糖尿病、脂質異常症、喫煙が心臓血管病リスクに関連することが明らかであるが、それらのコントロールがうまくできていないのが現状である。本研究では、地域の薬剤師が心臓血管病リスクへの介入に関わることにより心臓血管病予防の効果が上がるかを検討した。

カナダのアルバータ州の 56 か所の薬局において登録された心臓血管病リスクの高い患者 723 人が対象となった。心臓血管病リスクとしては、糖尿病、慢性腎臓病、心臓血管病の既往、フラミンガムリスク 20%より大きく、かつコントロールされていない危険因子（血圧・LDL コレステロール、HbA1c、喫煙）が 1 つ以上あること、とした。対象者の平均年齢は 62 歳、男性が 58%、喫煙者は 27%であった。対象者を通常のケア群または介入群（心臓血管病リスクのアセスメントおよび指導、必要な薬剤の処方し用量を調節する）にランダムに割り付け、1 か月に 1 度のフォローを 3 か月間行った。その結果、介入群では通常のケア群に比べて心臓血管病リスクが 21%の有意な改善がみられた ($p<0.001$)。また介入群では通常ケア群よりも LDL コレステロール値が 0.2mmol/L 低下 ($p<0.001$)、収縮期血圧が 9.37mmHg 低下 ($p<0.001$)、HbA1c が 0.92% 低下 ($p<0.001$)、喫煙率が 20.2%低下 ($p=0.002$) した。

したがって、心臓血管病の危険因子がコントロールされていない人に地域の薬剤師が介入することで、心臓血管病のリスクが有意に低減する可能性が示唆された。このような介入措置が公衆衛生に大きな便益をもたらすと考えられる。

出典 : Journal of the American College of Cardiology. Published online Mar 29, 2016;
pii: S0735-1097(16)32407-X